

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成22年度 第1回 川西市青少年センター運営委員会	
事務局 (担当課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)	
開催日時		平成22年6月28日(金) 10:00~11:30	
開催場所		川西市役所 庁議室	
出席者	委員	益満良一、多久和桂子、森田文英、井上克己、真鍋由香里、 澁野敏彦、田村嘉規、佐伯直樹、岩木信夫、牛尾 巧	
	事務局	林 一幸、上中敏昭、大谷啓史、中井裕子	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数
		1人	
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		開会 1. 運営委員の委嘱について 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1) 平成22年度 川西市青少年センター事業 (2) 平成22年度 学校・関係機関との連携による支援・指導 4. その他 平成22年度 夏季特別補導強化期間実施要領 川西市歳末青少年補導活動実施要領 閉会	
会議結果		協議事項は(案)どおり了承	

## 1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭に今年度新しく運営委員になられた方へ委嘱並びに辞令を青少年センター運営委員会会長の益満 良一教育長から交付された。

## 2、会長あいさつ

本日はご多用の中、第1回青少年センター運営委員会にお集まりいただきありがとうございます。

青少年が力強く育ち、やがて社会を支える大きな力になってくれることは、川西市民すべての願いであります。

その為には、学校、地域、家庭、行政におきまして対応が難しいとは思いますが、それぞれの役割を果たすべく、学校を核として地域、関係機関が連携をとり何ができるのか考える時であります。又、青少年に関わる状況においては様々な問題を抱えている中、情報の共有、人間関係を築き合うことが重要であると思えます。

本日の第1回運営委員会が実り多い協議になることを期待しております。委員の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

<自己紹介>

## 3、協議事項

<事務局説明>

(1) 平成22年度 川西市青少年センター事業

非行防止対策

青少年の健全育成及び安全確保

青少年情報発信（広報啓発）

年間活動報告

【質疑応答】

(会長)

協議事項(1)事務局より説明がありましたが、質問及び意見をお伺いします。

(委員)

「こどもをまもる110番のおうち」の市内全体の設置状況は把握されているのか。

また、青少年センターだよりを毎月発行されているが、一般の保護者に伝わっているのか。

(事務局)

市内全体で2007軒の協力を得ている。小学校区ごとの協力者数は把握している。地域での偏りがある状況もわかっている。継続して小学校には協力依頼をさせていただいている。

青少年センターだよりについては、発行部数が限られているので、全ての家庭に届くのは難しいと思うが、補導委員や学校から地域に広く伝わるように依頼している。

又、ホームページに掲載し毎月更新しているのでご覧になっていただきたい。

(委員)

「こどもをまもる110番のおうち」の安全旗を小学校がチェックするのは大変ではないか。

(事務局)

センターでも地域を巡回する際には旗の交換等をさせていただいている。

(会長)

青少年センターだよりの内容についても子どもたちが地域で活躍している様子などを掲載して欲しい。

(会長)

「こどもをまもる 110 番のおうち」の旗が劣化してきているが、素材など改善策はとっているのか。

他市との合同補導についてももう少し具体的に伺えないか。

(事務局)

青少年センターだよりの内容については今後もできる限り、地域の様子や学校の様子、新しい情報なども掲載していきたいと考えている。

「こどもをまもる 110 番のおうち」安全旗について、もう少し強い素材に変えるよう、業者と相談している。

近隣市との合同補導の必要性を強く感じている。川西能勢口駅周辺は交通の便もよく、たまりやすい場所も多く点在している。

子どもたちの動きが広域化している中で情報交流を密にしていきたいと考えている。

(委員)

地域を歩いていると「こどもをまもる 110 番のおうち」の旗が劣化していることが目立つ。どこが事務局をしているのかが市民に徹底してないのではないかと思われるので一度、整備して欲しい。

(委員)

子どもの安全確保と広報啓発活動として青色回転灯装備車両で巡回パトロールを実施しているが地域と連携をとっているのか。

(事務局)

毎年 2 月には開設者にはお礼と継続意志の確認並びに新規の協力者へは趣意書を渡しているので各小学校と青少年センターが窓口とわかるよう努めている。今後も小学校と連携をとりながら整備していきたい。

(事務局)

各地域でも青色回転灯装備車両を所有し、巡回をされているがなかなか具体的な連携をとるには時間的な面で難しいことがある。今後は地域、防犯協会や危機管理室などと連携を図り巡回パトロールに努めていきたい。

(委員)

川西市では、昨年 11 月より青少年支援課が中心となり「青少年の健全な育成に全市を挙げて取り組む日」を制定し、毎月第 3 日曜日を「青少年ふれあいデー」とした。

11 月は「青少年ふれあいデー強調月間」ということで、具体的な取り組みを青少年センターも考えてみてはどうか。

(事務局)

市長部局と連携し取り組んでいきたいと考えている。

(委員)

「こどもをまもる 110 番のくるま」のステッカーはどの部署が担当しているのか。

(事務局)

危機管理室が担当している。

ステッカーは公用車だけではなく、民間企業にも協力を得ている。

(会長)

今後は企業とも連携を図りながら危機管理室を中心として、青少年センターも協力体制で取り組んで欲しい。

<事務局説明>

(2) 平成22年度 学校・関係機関との連携による支援・指導

事例報告

青少年センターの役割

まとめ

○親支援の重要性

○学校、関係機関、地域等との情報共有と行動連携

○規範意識の醸成

○地域社会が子どもを見守る意識の啓発

【質疑応答】

(委員)

非行防止教室の実施内容と課題について具体的に教えていただきたい。

(事務局)

学校によっては全校生徒対象であったり、学年対象であったりと実情によって内容が若干、違うことがある。

近年、非行の低年齢化など小学校においても危惧することが多く、今年度、兵庫県警察本部では新たな事業として「小学校での非行防止教室」の開催を勧めることとなり、青少年センターとしても小学校に依頼するが今年度は実施校が少ない。

(委員)

事例の報告でもあったが保護者の経済的な背景が子どもたちに大きく影響してるように思う。

暴力で育てられた子どもは暴力を振るうことで解決するようなことがあると聞く。

(委員)

他市との会議に出る機会が多い。情報交流する中で川西市は関係機関との連携がよくとれている。

日頃の青少年センターの関わりにより円滑な連携が図れることに感謝している。

## 4、その他

<事務局説明>

平成22年度 夏季特別補導強化期間実施要領

川西市歳末青少年補導活動実施要領

閉会